

福津

暮らしの旅

新鮮な野菜や魚を食べる

海辺で夕日を見る

花々眺め季節を感じる

福津での日々の

暮らしの中にある

自然を感じるゆとりある時間

その時間で感じるゆとりができる

「小さな幸せ」を

「小さな豊かさ」と表現し

その豊かさを大切にした

旅が始まりました

旅の始まりから

これから取り組みについて

お伝えします



農家さんと畦道と一緒に歩く時間。いつもと違う時間が流れます

自然を生かした旅づくり

海と山に囲まれた福津市。私

たちの暮らしのそばには豊かな

自然が広がっています。

自然という魅力は、福津に暮らす人にとつて自慢の一つです。

また、福津市へ訪れる人の多くが「自然があるから、福津へ足を運ぶ」と答えるほど、外の人にも認められた魅力でもあります。

この魅力を生かした取り組みとして誕生したのが『福津暮らしの旅』です。

この旅を通して、自然の魅力や、自然を守りながらこれを生かす暮らしの知恵を旅の参加者へ伝えることで、「参加者が福津のファンになり、福津へ何度も訪れるリピーターになること」、「まちに暮らす人が自分の暮らしにより誇りを持つこと」、そして「まちに

小さな経済が生まれ、まちが少し豊かになること」を目指しています。

46人が生み出した、18の旅

「日常」をもとにした旅の誕生

小さな経済が生まれ、まちが少し豊かになること」を目指しています。

平成23年7月、自然を生かした体験・交流事業を一緒に考えてほしいという市の呼び掛け

に、農業、漁業、飲食業、宿泊業、教育関係者など、多彩な分野から、福津暮らしを楽しむ28人が旅づくりの仲間として集い、取り組みが始まりました。

一年半にわたり、話し合いを何度も重ね、旅の資源の掘り起こし、知恵を出し合ながるところ」など、旅のヒントが数多く生まれました。

そして、「自然と共に歩む、福津の今と昔の日常生活を丁寧に伝える旅」という、新しい旅のスタイルを誕生させ、これからの中格実施に向けて仲間とともに、今、準備を進めています。

46人の力で誕生した、福津暮らしの旅



月1回地域で行う取り組みへ参加をする前、「はじめまして」のあいさつの時間

福津に暮らす「小さな豊かさ」

福津暮しの旅では、日常の価値を分かりやすく表現するために、日々暮らしで感じることができる「小さな幸せ」を5つの「小さな豊かさ」として表現し、それを大切にした旅づくりを進めています。

1、自然と季節に寄り添うこと

2、ゆとりある時間を感じること

3、ちょっとひと手間掛けること

4、お互い楽しく過ごすこと

5、地元の伝統・文化を大切に思うこと



旅をとおして

旅の実施者をとおして、実施者や参加者に
気持ちの変化を聞いてみました。

自分のまちは多くの
魅力にあふれています
ぜいたくな暮らしをおすそ分け
いたくなりました

旅の実施者 古賀広宣さん

「このまちに人に誇れるものがある?
古賀さんが持った旅づくりへの第一印象でした。

旅づくりの仲間と会議を重ねる
中で、「自分のまちが本当に多くの
魅了にあふれていること、そしてこ
とに気付いた」と話します。

「人が元気になると、まちが元気
になる」と旅づくりをとおして強く
感じ、「これからも楽しみながら旅づ
くりを進めていきたいと古賀さん
は語ります。

旅の参加者 藤田裕美子さん

知人に誘われ、そんなに美味し
いお米なら食べてみたいという好
奇心から「花田智昭さんの美味し
いお米と奴山の暮らし」へ参加し
た藤田さん。

農家の花田さんの話や、お米の
収穫体験後に釜炊きの炊き立て
ご飯を味わい、「豊かな環境に恵
まれている福津だからこそ体感す
ることができる素敵な時の暮らし。
このぜいたくな暮らしを多く
の人におすそ分けしたくなつた」と話します。



農家さんや漁師さんと触れ合う旅、歴史あるまちなみを楽しむ旅、海の魅力を満喫する旅など、今回は19つの旅を準備しています。ここでは、3つの旅を紹介します。

港町に暮らす旅



津屋崎に移住し「継ぐこと」をテーマに仕事をする都郷なびさん。この旅は、都郷さんのガイドの元、地元のもてなしを受け、参加者も地元のかたをもてなす3日間の旅。贈り合う暮らしから見えてくるものを、暮らしに浸り、参加者同士の対話を通して見つめます。

【9月下旬開催予定】

朝市から始まる日曜日 一津屋崎漁港朝市と海ごはん



毎週日曜の早朝、多くの人で賑わう津屋崎漁港の朝市。この旅は、地元の人と一緒に朝市と、新鮮な魚を使った朝ごはんづくりを楽しむ旅。朝市を楽しむコツ、魚をさばくコツ、魚を使った味噌汁を作るコツなど、沢山のコツを知ることができます。

【10月開催予定】

司じいちゃんと 冬野菜づくり



田園の奥に海が広がる景色を一望できる、在自。この旅は、在自で60年間農業を営む上妻司さんと一緒に親子で土と触れ合う旅。育てる野菜はブロッコリー。野菜栽培の時間だけでなく、旬の野菜で料理をしたり、もちつきを楽しむ時間もあります。

【11~2月開催予定】

〈交流する場 フェイスブック〉



福津暮らしの旅 検索

平成24年6月に、旅づくりの様子をリアルタイムでお知らせするために、フェイスブックページを開設しました。旅の事務局を中心に、実施者・参加者なども情報発信し、ページ上を交流する場の1つとしています。

旅の企画・実施の様子をはじめとして、旅の「たね」となる福津の日常や、旅を広げる取り組みなどについても、お知らせしています。

旅のこれから

「福津暮らしの旅運営協議会」が中心となって、より多彩で充実した旅へ

今年は19の旅を行います

今年度も9月から12月の秋頃に旅を行います。

運営協議会が中心となって、

4月に企画づくりを開始し、現在、実施者や協力者などの旅づくりの仲間と共に、準備を進めています。平成24年度の12個の旅から内容がさらに充実し、19の旅となる予定です。

8月には旅の詳しいお知らせをする予定です。市役所や市行政・観光情報ステーション「ふつくる」をはじめとして、市内外各所で配布するリーフレットや、市公式ホームページなどをご覧ください。

四季折々の魅力を伝える旅へ

福津暮らしの旅は、将来的には四季折々の魅力を伝えるため

福津暮らしの旅を発展させるため、旅づくりの仲間の輪を少しずつ広げていく取り組みも始めています。

旅がどのようにして生まれた

物に寄り添う暮らし―ティングサ採りから「どうでんづくり」までー」を皮切りに、取り組みを進めています。

今後、伝統の祭り・津屋崎祇園山笠を体感する旅や、世界にひとつだけの水族館をつくる旅を企画・実施します。

詳しくは、広報ふくつ7月1日号22ページをご覧ください。

旅づくりの輪を広げる

福津が好きな誰もが、旅の実施者にも、そして参加者にもなることができます。福津暮らしの旅。これからも多くの人に旅と触れ合っていただき、共に創り上げる旅にしていきます。皆さんの参加をお待ちしております。



に、年間を通した旅の実施を目指しています。

その準備として、今年度から秋以外での実施の試みも始めました。5月に開催した「海の宝

のか、旅のもととなる暮らしや人々の思いを「たね」に例え、「福津暮らしの旅 たね本」としてまとめました。

今後、旅に興味・関心のあるかたへ、たね本

をお渡ししていきます。

問い合わせ
福津暮らしの旅運営協議会
(市商工観光課内)
☎ 52-4951

たね本